

4) 2000年産アユの初期成長

田中秀具・吉岡 剛・鈴木隆夫・大山明彦・酒井明久

【目的】湖産アユの初期成長を把握し、過去のデータと比較等の検討をすることにより、初期資源状況解析や、その後の漁獲予測の参考とする。

【方法】2000年9月22日～12月20日の間に11回、夜間に、安曇川河口～犬上川河口沖を中心に、北湖の各水域で、稚魚ネット（角形幼生網、通称、ヒウオ曳網）を用いて仔稚アユ採集調査（1000m / 曳網, 10分で、水深7m層または18m層を曳網）を行った。採集標本のうち、1曳網あたり、30尾（それに満たない場合は全個体）、合計1011尾について標準体長（以下、体長）を測定後、耳石（扁平石）による日齢査定を行った。それに11月のエリ漁獲アユ50尾の測定データを加えて、併せて1061尾について、ふ化時期別の12月までの初期成長を1998年、1999年のほぼ同時期・同一手法によるデータと比較しつつ検討した。

【結果および考察】（1）ふ化時期別のふ化後日数と体長との関係（図1.）は、各ふ化時期とも修正指数曲線にあてはまり（図2.）、曲線の様相からふ化時期が早いほど成長がよく、遅生まれほど成長が鈍化する事が明らかで、この傾向は1998年、1999年と同じである。

（2）今年の特徴としては、9月20日以前ふ化群の成長が、他に比し特に良い。

（3）同時期間で過去の成長曲線と比較すると（図3.）、9月20日以前にふ化したものは、1998年には若干劣るものの、1999年とほぼ同じ成長を示すが、それ以降にふ化したものでは（特に9月21日～10月10日、ふ化日組成からみて主群部分に相当）過去2年に比し、低い成長を示した。この原因は不明であるが、当場の琵琶湖定点観測（本誌、別添資料参照）による2000年10月から12月のプランクトン沈殿量が平年値を下回る（1998、1999両年は平年値を大きく上回る）という事実があり、このことと関連があると思われる。

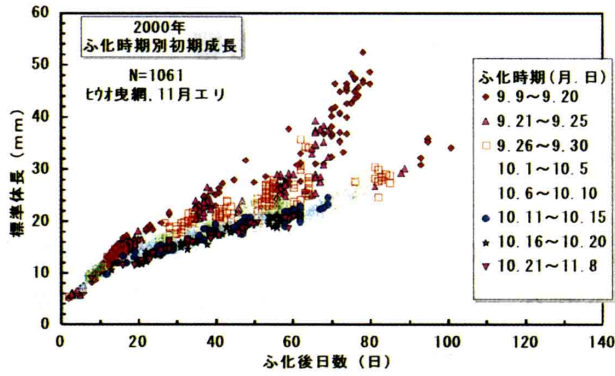


図 1. 湖産アユのふ化後日数と体長との関係

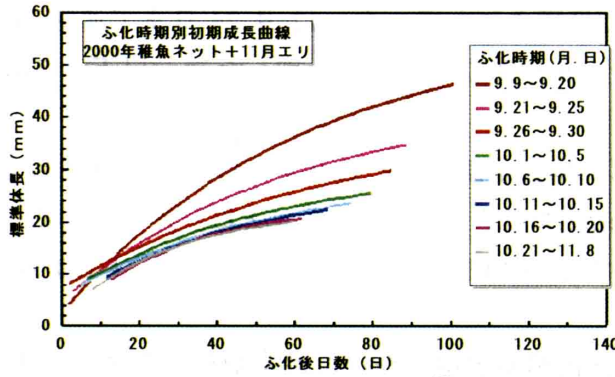


図 2. 湖産アユのふ化時期別初期成長 (修正指数曲線)

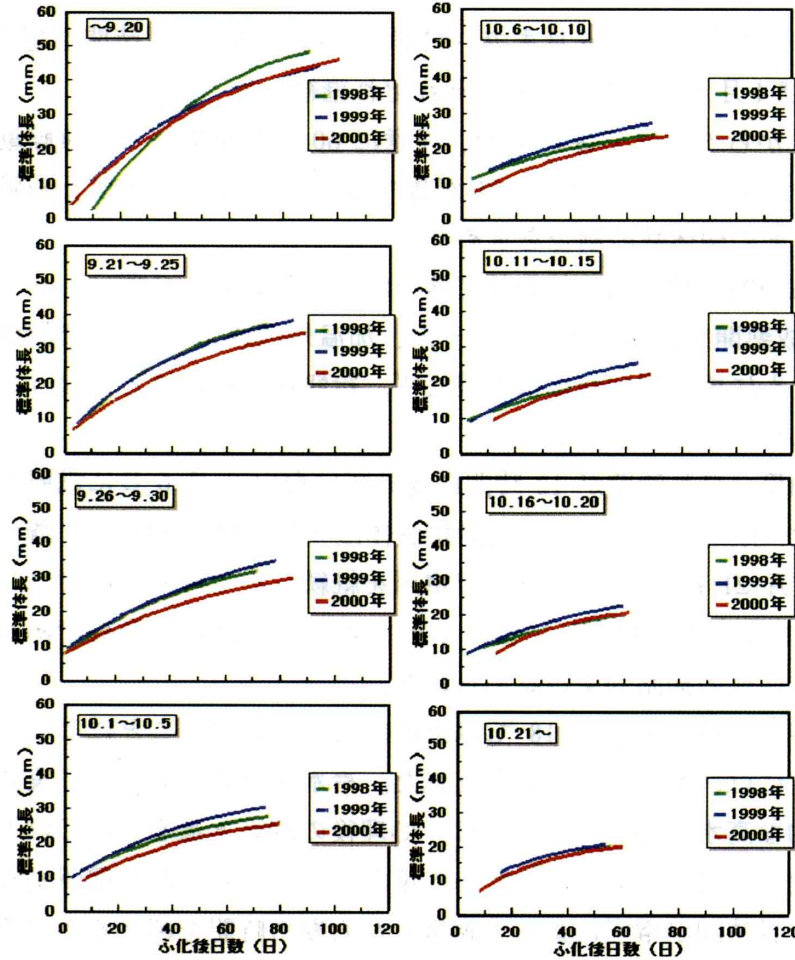


図 3. ふ化時期別成長曲線の年次間比較